

## 平成 29 年度における県立文化施設等の個別事業評価に伴う事業の視察について

● アール・ブリュットによる『ひと・まち・空間』形成事業  
【湖北のアール・ブリュット展 2017・まちなかアール・ブリュット】

主 催：湖北アール・ブリュット展推進会議

事業内容：①展覧会「湖北のアール・ブリュット展 2017」

(11 月 23 日～26 日、於：ヤンマーミュージアム)

湖北アール・ブリュット展推進会議と湖北アール・ブリュット懇話会が協力して行う初の展覧会。今年は、株式会社黒壁が行う（北国街道沿いにガラス展を線で開催する）事業とリンクさせ、北国街道沿いにて開催。

②北国街道での作品展示「まちなかアール・ブリュット」

(11 月 23 日～26 日、北国街道沿い各所)

江戸時代の商家の佇まいを色濃く残す長浜の中心市街地。その軒先や、オープンスペース等でアール・ブリュット作品を展示。作成したマップをもとにまちなかに点在するアール・ブリュットとまちの景色を巡る。

また、展示の場を借用してアール・ブリュットひいては障害者への理解を深めると共に①の展覧会への導入を促した。

会 場：ヤンマーミュージアム、北国街道沿い

視 察 日：平成 29 年 11 月 23 日（木・祝）

出席委員：富永副部長、東委員、殿村委員



● 滋賀県立文化産業交流会館 音楽劇「美味しいメロディ改」

主 催：滋賀県立文化産業交流会館

事業内容：演劇に歌やダンスを取り入れた音楽劇を上演。平成 28 年度に書き下ろされ上演したオリジナル作品をバージョンアップし再演。

また、地元企業等との連携・協力を得て、本県の特徴ある製品や伝統産業を作品の中に取り込むなどの工夫により大規模な空間を活用した作品づくりを実施。

会 場：滋賀県立文化産業交流会館

視察日：平成 29 年 12 月 3 日（日）

出席委員：中川部長、富永副部長、直田委員、東委員



○評価部会委員による外部評価

事業名：湖北のアール・ブリュット展2017・まちなかアール・ブリュット

定性評価	重点施策1 文化による本県ブランド力の向上と国内外への効果的な発信	評価すべき点	
	重点施策2 地域で継承されてきた文化的資産の発掘・保存・活用	改善が必要な点	
	重点施策3 子ども・若者が本物の文化に触れる機会の充実	評価すべき点	
	重点施策4 若手芸術家等の育成・支援		
	重点施策5 文化活動を支える人材（アートマネージャーなど）の育成・支援	改善が必要な点	
	重点施策6 新しい豊かさを実感できる文化芸術活動の推進	評価すべき点	しょうがいがある方々の文化的可能性が存分に示されており、観覧者にとっては新しい「美」の発見がある。こうした展示は、作家本人やご家族にとっても励みになり、県内の文化芸術活動の好循環を招くと思われる。
	重点施策7 「美の滋賀」づくりの推進		ヤンマーミュージアムという会場選定が良く、アールブリュットの展示ではそれほど多くない親子連れにも自然にアピールできたと思う。
	重点施策8 自律的な文化活動の促進		長浜市の街中で「アール・ブリュット」を披露する仕組みに「地域の文化」としての誇りが感じられ、インバウンドを含めた長浜市のブランディングに資するものと考えます。同時にアール・ブリュットのアーティストとしての誇りを育む素晴らしい取り組みだし思います。
	重点施策9 文化活動の環境の整備	改善が必要な点	まちなかに展示される作品が、中途半端な位置づけである。展示数や見せ方などを工夫した方がよいのかもしれない。 せつかくの素晴らしい取り組みなので、もっと誘導看板や説明があっても良いのではないかと思います。 長浜駅からの誘導看板、ポスター、チラシなどもプロダクトアウト的な視点で作られていたので、これからは観光客の視点にたった客観的な視点で作成し設置することで、さらに大きな反響が得られると考えます。
総 評		評価すべき点	アールブリュットは、県民の認知度を高めることがまず重要であると日々感じている。これは、継続なくしては不可能であろう。長年にわたって活動を継続されていることに敬意を表したい。県内の他の地域の見本となりうるような事業である。 工房の開設は、しょうがい者のエネルギーを創作活動に向かわせ、作家層の広がりにも寄与するだろう。 アール・ブリュットを誇りあるアートとしてとらえ、地域をあげて披露する視点に今後の大きな可能性を感じました。 国内だけでなくインバウンドを視野に入れた「長浜市のアート」さらに「滋賀県のアート」に位置付ける取り組みはこれまで自治体主導だった感がありますが、今回のイベントは市民も誇りに思っていることを象徴するボトムアップ型の象徴になると思います。
		改善が必要な点	「まちなか」という名称は、アールブリュットの敷居を下げ、大変よいネーミングであると思う。ただ、圧倒的にヤンマーミュージアムの展示の印象が強く、「まちなか」を冠するならば少し工夫が必要かもしれない。 まだまだ「これは障がい者の作品です」といった壁をみずから作っている感があり、アール・ブリュットをひとつのアートとして認識するには時間がかかりそうに思いました。 アール・ブリュットを立派なアートとして位置づけ、制作者を立派なアーティストとして紹介する意識はポスターや販促物の作り方やアーティストの写真、展示方法に工夫を加えることで醸成できると思います。まずはイメージ改革から取り組んでももらえれば将来、滋賀県ならではの素晴らしい文化として世界から認識されていくと思います。
			ヤンマーミュージアムおよび市内の北園街道で行われた作品の展示は、とくに後者が試みとしては大変おもしろく拝見したが、街中でどのように受けとられているのか、市民の反応があまりよく分からなかった。またヤンマーミュージアムでの展示も、ヤンマーの製品の展示との区別があまりはっきりとしないようにも思われた。

○評価部会委員による外部評価

事業名:文化産業交流会館 音楽劇「美味しいメロディ改」

定性評価	重点施策1 文化による本県ブランド力の向上と国内外への効果的な発信	評価すべき点	
	重点施策2 地域で継承されてきた文化的資産の発掘・保存・活用	改善が必要な点	
	重点施策3 子ども・若者が本物の文化に触れる機会の充実  重点施策4 若手芸術家等の育成・支援  重点施策5 文化活動を支える人材(アートマネージャーなど)の育成・支援	評価すべき点	半年間、39日の練習、本番を良く成し遂げたと思います。参加する世代が多様であった事も良かった。
			子どもたちが懸命に演じており、ほほえましく思った。鑑賞する子どもたちや親と、演者の間には、高揚した一体感があったのではないかと。こうした感覚は、次の文化創作体験につながっていくと思う。
			スタッフの半分が滋賀県民であるとのことで、人材育成の場になっていることがよい。
			ジャズバンドが県民で構成されていることがよかった。
		改善が必要な点	これだけの集中的な練習・稽古が行われるというのは、参加者にとって十分重要的な経験であろう。ミュージカルをみんなでつくりあげていくという体験は、参加者にとって成長の機会として大きなものがあると思われる。
			舞台関係者を育成するという面では一定の効果はあるだろうし、舞台を作る経験が得られる点では有効性は認められる。
			子ども・若者が本物にふれるよい機会となり、また地域における文化体験学習のよい例をも示すことができた。
			やはり、出演者の呼吸が揃わない事が気になりました。練習、けいこの参加率のバラツキの為でしょうか。一定の参加率は必要かと。
			高校生・大学生が少ないとのことだが、そもそもの層をターゲットにして育成・支援をおこなうのか、再検討の必要があるのかもしれない。
			参加型事業あるいは教育的事業としてみれば、一定の成果はあると思われるが、「クオリティ」の内容が主催者として詰め切れていない(と思われる)ので、中途半端な内容に終わっているのが惜まれる。
	重点施策6 新しい豊かさを実感できる文化芸術活動の推進  重点施策7 「美の滋賀」づくりの推進  重点施策8 自律的な文化活動の促進  重点施策9 文化活動の環境の整備	評価すべき点	出演者の努力や力量はアンケートにもあるように充分なものがあるのだが、それが生かされきっていないことに問題がありそうである。これはプロデュース側(企画者及び台本演出)の問題であろう。
			出演した後の発展形があまり見えてこない。趣旨・目標が曖昧なだけに、やや一過性の事業にとどまるかもしれない。
		改善が必要な点	地域の文化スタッフの育成とストック形成を図るという趣旨は非常にいいことだと思うが、技術を習得された方の活躍の場を提供できるのか、主催者たる財団の役割であろう。
			このような機会が今後ますます増えるとともに、内容の点でも充実することが望まれる。

総 評	評価すべき点	<p>演劇が持つ自己容体化、感情移入等の教育、自己成長への効果は定評があります。これを引き続き発展させてほしい。</p> <p>県民によって一つの作品を作り上げることはすばらしく、レベルアップしながら継続的におこなっていただくと、若者の芸術活動の場としての文産会館の位置づけも定着すると思われる。</p>
	改善が必要な点	<p>観客の少なさ、参加者の世代的バラツキはどうしても気になります。出演者の満足度は良いと思うが、社会的効果を拡大する方策が更に必要と思います。</p> <p>演者のレベルが区々であったが、練習で全員揃わないとの旨を聞き、納得した。このままいくと、演者の身内だけが観に来る内輪の会になってしまわないかとやや心配である。</p> <p>音が大きすぎで、楽しめない場面があった。</p> <p>ストーリーにメリハリを付けるべきだということ。出演者の子どもたちが戸惑っていないか(理解しているのか)。子どもたちの意見を聞いているのかどうか。</p> <p>大人の出演者に、ハイレベルの(プロとはいわないが)演技力を持つ人を一人入れるべき。その人の演技が、(子どもたちの出演者にとってのモデル、になるように、自身の成長の目標となるようにすることが望ましい。</p> <p>参加者(鑑賞者)が少ない。出演者の関係者に限られている気配。友人たちが大挙して見に来る、という光景でもない。「交流」を目指しているのになぜか。舞台に出ることは、若い人の間で、アドバンテージではないのか。</p> <p>参加者の問題は、本事業の趣旨の曖昧さと大きく関わっていると思われる。教育的事業ならこれでよいと思われる。</p> <p>このイベントが、地域の「話題」になっているのかどうか。地域の「事件」にできないか。</p>

## 【湖北のアール・ブリュット展2017・まちなかアール・ブリュット】

区 分	評価内容(改善すべき点)および質問事項	左記に対する対応等
<b>重点施策6</b> 新しい豊かさを実感できる文化芸術活動の推進  <b>重点施策7</b> 「美の滋賀」づくりの推進  <b>重点施策8</b> 自律的な文化活動の促進  <b>重点施策9</b> 文化活動の環境の整備	<p>①まちなかに展示される作品が、中途半端な位置づけである。展示数や見せ方などを工夫した方がよいのかもしれない。</p> <p>②せっかくの素晴らしい取り組みなので、もっと誘導看板や説明があっても良いのではないかと思います。長浜駅からの誘導看板、ポスター、チラシなどもプロダクトアウト的な視点で作られていたので、これからは観光客の視点にたった客観的な視点で作成し設置することで、さらに大きな反響が得られると考えます。</p>	<p>展示箇所が少ないことは、問題があると認識していました。警備上、スタッフと日頃から交流がありアール・ブリュットを深く理解していただいているお店等の軒先に限定していることが原因ではありますが、警備体制を強化できれば協力いただける施設は飛躍的に増えるのは間違いのない事実です。次回は警備の問題をクリアし、より多くの方にご協力いただけるよう、体制を整えたいと思います。</p> <p>作家自身が誇りを持てるような展覧会にすることも重要なコンセプトの一つであるため、ついプロダクトアウトな視点に立ってしまいがちです。しかし、前回開催のアートインナガハマからヤンマーミュージアムに会場を変更したのは、地元客と観光客のバランスを考えてのことであり、マーケットインの視点をより強く持たなくてはならないという意思の現れであることから、今後はその点も十分に意識しながら進めて参りたいと思います。</p>
総 評	③「まちなか」という名称は、アールブリュットの敷居を下げ、大変よいネーミングであると思う。ただ、圧倒的にヤンマーミュージアムの展示の印象が強く、「まちなか」を冠するならば少し工夫が必要かもしれない。	ヤンマーミュージアムへの導線としながらも、圧倒的に展示個所が少なかったのは、強く反省すべき点でありました。展覧会への道すがら「ここにもある」「あそこにもある」という状態こそが、理想です。また、まちなかでの展示を見つけやすくする工夫も必要だと感じています。よりよい展示にするべく、改善して参ります。
	④まだまだ「これは障がい者の作品です」といった壁をみずから作っている感があり、アール・ブリュットをひとつのアートとして認識するには時間がかかりそうに思いました。 アール・ブリュットを立派なアートとして位置づけ、制作者を立派なアーティストとして紹介する意識はポスターや販促物の作り方やアーティストの写真、展示方法に工夫を加えることで醸成できると思います。まずはイメージ改革から取り組んでもらえれば将来、滋賀県ならではの素晴らしい文化として世界から認識されていくと思います。	創作の現場である障がい者施設からは、この展覧会に対しても未だに反発があるのは事実です。あくまで余暇活動であり、より穏やかに、よりよく生きるための一手段でしかないものを周辺環境によってかき乱されたくないという思いや、当事者重視の視点から、こちらが良いと思う作品は本人にとっては過去のモノであるため、本人が喜ぶよう最近創った作品しか展示させたくないといった考えもあり、葛藤は続いています。紹介の仕方についても同様であり、現在は施設側に任せすることで問題の顕在化を防いでいますが、我々はこれでよいと思っているわけではありません。この問題についても、時間はかかるかもしれませんが、根気よく理解を求めながら、意識改革していかなければならない問題だと思っています。少しずつではあっても、意識改革を進める中で展示の手法をよりアートとしての認識に近づけるよう、努力して参ります。広報ツールについても、②で回答したような意識を持ちながら、理解を深めつつ、よりよいものにして参りたいと考えています。

区 分	評価内容(改善すべき点)および質問事項	左記に対する対応等
	<p>⑤ヤンマーミュージアムおよび市内の北國街道で行われた作品の展示は、とくに後者が試みとしては大変おもしろく拝見したが、街中でどのように受けとられているのか、市民の反応があまりよく分からなかった。またヤンマーミュージアムでの展示も、ヤンマーの製品の展示との区別があまりはっきりしないようにも思われた。</p>	<p>市民の反応としては、アール・ブリュットという言葉自体はずいぶん浸透してきたように思っています。今回、軒先を拝借したところをお願いに行った際には、展示作品の傾向などもご存知でした。こういった理解が深まって行くことが大事だと思うとともに、今回舞台となった市街地南部のように観光地から外れたところも盛り上がってくるといいなと思っています。また、ヤンマーの展示との区別については、部屋で仕切られていたものの、展示室への誘導をもっとしっかり作り込めば、さらにハッキリとしたのかなと思いました。ご意見、参考にさせていただきます。</p>

## 【音楽劇「美味しいメロディ改」】

区 分	評価内容(改善すべき点)および質問事項	左記に対する対応等
<b>重点施策3</b> 子ども・若者が本物の文化に触れる機会の充実  <b>重点施策4</b> 若手芸術家等の育成・支援  <b>重点施策5</b> 文化活動を支える人材(アートマネージャーなど)の育成・支援	①やはり、出演者の呼吸が揃わない事が気になりました。練習、けいこの参加率のバラツキの為でしょうか。一定の参加率は必要かと。	稽古の出席率を応募条件とすることについては、今年度の状況を見ると検討すべき課題であると認識しております。来る者は拒まずで参加を受け入れて人数を確保するか、人数が減っても出演者間のモチベーションを維持するため参加率を設けるかを検討します。
	②高校生・大学生が少ないとのことだが、そもそもの層をターゲットにして育成・支援をおこなうのか、再検討の必要があるのかもしれない。	事業名のとおり、中心となる層は中学から高校生と考えております。今年は高校の期末試験が公演直後に迫っており、高校生の参加が少なかったのが残念でした。また、大学生や20歳代の社会人の参加者がいれば、子どもと大人を繋ぐ役割を担ってくれるのではと考えております。
	③参加型事業あるいは教育的事業としてみれば、一定の成果はあると思われるが、「クオリティ」の内容が主催者として詰め切れていない(と思われる)ので、中途半端な内容に終わっているのが惜まれる。	作品のクオリティを高めることは、大きな目標として捉えております。一方で演劇や舞台に興味のある方にも舞台に立っていただくことも大事であると考えております。ただし、ご指摘のとおり、現状ではクオリティより参加、体験、普及に重点が置かれています。本事業を広く周知し、地域に根づかせながら徐々にクオリティ重視に移行していきたいと考えております。
	④出演者の努力や力量はアンケートにもあるように充分なものがあるのだが、それが生かされきっていないことに問題がありそうである。これはプロデュース側(企画者及び台本演出)の問題であろう。	演出については、演技の技術向上よりも参加者全員が欠けることなく全員がそろって舞台を踏むことを優先されました。台本作成時から参加者一人ひとりと向き合い、それぞれの個性を生かせるような配役をされましたが、前述のとおり欠席者が多く内容の濃い稽古が不足であったこと、演劇公演の会場としては大きいイベントホールを上手く使い切れなかったことが問題として挙げられます。
	⑤出演した後の発展形があまり見えてこない。趣旨・目標が曖昧なだけに、やや一過性の事業にとどまるかもしれない。	現在、おもに参加者を対象に月1回程度ですが演劇ワークショップを引き続き開催しています。これは、演劇の技術向上、出演者同士の連帯を深めるとともに次年度への参加に向けた機運を高めるために開催しています。現在、県内では、湖南エリア(草津クレアホール)、湖西エリア(藤樹の里文化芸術会館)、湖北エリア(文化産業交流会館)においてミュージカルや音楽劇の創作が実施されており、その中から活動者・指導者が発掘・育成されています。
	⑥地域の文化スタッフの育成とストック形成を図るという趣旨は非常にいいことだと思うが、技術を習得された方の活躍の場を提供できるのか、主催者たる財団の役割であろう。	昨年、今年はプロの演出家、スタッフの指導のもと、地元演劇関係者もスタッフとして参画し、演劇制作のノウハウを習得していただきました。この経験を活かして、将来的には、オール地元による演劇公演の制作や各自の自主公演にも活用されることを目指しています。
	⑦このような機会が今後ますます増えるとともに、内容の点でも充実することが望まれる。	例えば上演作品のテーマ、設定等に地域性を盛り込み等出演者、鑑賞者が本事業を身近に感じ、地域の話題となるような作品づくりを検討します。

区 分	評価内容(改善すべき点)および質問事項	左記に対する対応等
<b>重点施策6</b> 新しい豊かさを実感できる文化芸術活動の推進 <b>重点施策7</b> 「美の滋養」づくりの推進 <b>重点施策8</b> 自律的な文化活動の促進 <b>重点施策9</b> 文化活動の環境の整備	⑧世代のバラツキを克服する必要があるように思います。	次世代育成ユースシアター事業であるので、子ども・青少年が対象ですが、大人も加わることによって作品(役柄)の幅が広がり、集客面でも幅広い層にご覧いただくことができるため、引き続き受け入れたいと考えております。
	⑨演者がリピーターになってはじめて、「自律的」な文化活動といえると思います。	昨年度から引き続き出演した参加者もおります。また、演劇に興味を持ち、他館でのワークショップや公演にも参加し始めた方もいらっしゃいます。
	⑩「ごまのはえ」の演劇を中心に、さまざまな工夫もなされて、幅広く県民に受け入れてもらえる作品の上演が可能になったが、若者が参加し交流する機会となるには、これとは別の工夫を考える必要ももう少しあってもよかったかもしれない。	当館では、ほかにも小学生を対象に古典芸能の普及事業として、邦楽(箏)と邦舞のワークショップを毎年開催しています。これは単に技術の習得が目的ではなく、学校や地域の異なる子どもたちが協力しながら発表会を目指します。また、稽古を通じて挨拶等の礼儀作法も身につけていただこうと指導を行っております。これらの事業は、会館を拠点に子どもや若者の交流と文化活動の促進するための事業として、また会館の賑わいを創出する事業として引き続き取り組んで参ります。
総 評	⑪観客の少なさ、参加者の世代的バラツキはどうしても気になります。出演者の満足度は良いと思うが、社会的効果を拡大する方策が更に必要と思います。	世代間のバラツキについては⑧のとおりです。観客の少なさと社会的効果の拡大については、作品のテーマ、設定等に地域性を盛り込み話題となるような作品づくりを検討します。
	⑫演者のレベルが区々であったが、練習で全員揃わないとの旨を聞き、納得した。このままいくと、演者の身内だけが観に来る内輪の会になってしまわないかとやや心配である。	稽古の出席率を応募条件とすることについては、今年度の状況を見ると検討すべき課題であると認識しております。来る者は拒まずで参加を受け入れて人数を確保するか、人数が減っても出演者間のモチベーションを維持するため参加率を設けるかを検討します。
	⑬音が大きすぎで、楽しめない場面があった。	舞台美術、音響、照明については、様々なご意見・ご鑑賞が寄せられており、演出、舞台スタッフと共有し今後の参考にさせていただきます。
	⑭ストーリーにメリハリを付けるべきだということ。出演者の子どもたちが戸惑っていないか(理解しているのか)。子どもたちの意見を聞いているのかどうか。	演出家は普段の稽古では、まず台本を読んで、役の心情や喜怒哀楽を各自で考えて表現できるように子どもたちに対して十分にコミュニケーションをとることを心がけておられました。
	⑮大人の出演者に、ハイレベルの(プロとはいわないが)演技力を持つ人を一人入れるべき。その人の演技が、(子どもたちの出演者にとつてのモデル、になるように、自身の成長の目標となるようにすることが望ましい。	大人の出演者の中には、アマチュアで演劇経験の豊富な方がいてリーダー的役割を担って全員を引っ張ってくださいました。
	⑯参加者(鑑賞者)が少ない。出演者の関係者に限られている気配。友人たちが大挙して見に来る、という光景でもない。「交流」を目指しているのになぜか。舞台に出ることは、若い人の間で、アドバンテージではないのか。	観客動員については、出演者によるチケットの販売協力によるところが大きく、家族、友人等が多いが、中には出演することを口外しつながら見受けられました。また、見に来てくれる友人、知り合いがいない参加者もいらっしゃいました。
	⑰参加者の問題は、本事業の趣旨の曖昧さと大きく関わっていると思われる。教育的事業ならこれでよいと思われる。	①のとおり、参加者の応募条件をどの程度の設定にするかによると思います。



区 分	評価内容(改善すべき点)および質問事項	左記に対する対応等
	⑱このイベントが、地域の「話題」になっているのかどうか。地域の「事件」にできないか。	地元地域への発信では、マスコミ向け公開稽古を行い、ケーブルテレビや地方紙に紹介されました。出演者による積極的な広報により、通学する学校の教員にも鑑賞いただくことができました。また、地元演劇関係者の間では、プロの演出家、スタッフによる県民参加の演劇公演ということで注目されています。